



一般財団法人 日欧産業協力センター

EU Policy Insights

欧洲グリーンディール

Vol. 35 2026年1月

EU のオムニバス法案パッケージ (グリーン関連規制の簡素化法案) の 最新動向アップデート

シニアリサーチフェロー 新開裕子

- 本資料は、当センターの公式見解を示すものではありません。
- 本レポートの内容は別途記載がない限り執筆時点で入手している情報に基づくものであり、その後の状況変化や追加政策発表により変わる場合があります。
- 本レポートへのご意見、取り上げて欲しいトピック等、お寄せください。

eujp-info@eu-japan.or.jp

一般財団法人 日欧産業協力センター

〒108-0072 東京都港区白金 1-27-6 白金高輪ステーションビル 4 階

TEL: 03-6408-0281 FAX: 03-6408-0283

E-MAIL : eujp-info@eu-japan.or.jp

サマリー

2025年2月26日、欧州委員会は「オムニバス簡素化パッケージ(Omnibus Simplification Package)」法案を発表した。これは、欧洲グリーンディール関連の規制により企業の負担が増大するなか、欧洲経済の競争力回復を目的として、CSRD(企業サステナビリティ報告指令)、CSDDD(企業サステナビリティ・デューデリジェンス指令)等の制度の見直し(簡素化)をパッケージ法案として提示したものである。具体的には、制度の適用開始時期の延期、対象企業の範囲縮小、報告基準の要件緩和や簡素化などが含まれる。

本レポート連載2025年6月号(欧洲グリーンディール EU Policy Insights - Vol. 30)では、この見直しの背景や概要を解説した。その後、約半年の間にオムニバスIを巡る法案審議は大きく進展し、政治的な暫定合意を経て12月16日、欧州議会本会議で採択に至った。また、内容についても大幅な修正が加えられた。CSRDやCSDDDの対象範囲は大幅に絞り込まれ、適用対象を大企業に限定する改定が暫定合意に盛り込まれている。

本稿では、年末までの審議状況をアップデートするとともに、主要な修正ポイントを整理する。

今後注視すべきは、ESRS(欧洲サステナビリティ報告基準)の改訂である。EFRAG(欧洲財務報告諮問グループ)は12月3日に欧州委員会に対し簡素化版ESRS草案のテクニカル・アドバイスを提出した。これには、必須データポイントの約61%削減、ダブル・マテリアリティ評価の比例性明確化、バリューチェーン情報収集の柔軟化などが含まれる。

欧州委員会は、EFRAGのアドバイスを基に、今後、委任規則(Delegated Act)を起草し、2027年度報告に間に合わせるスケジュール感が示唆されている。これまでCSRD適用開始に向けて準備を進めてきた日本企業にとって、ESRS改訂の影響は避けられず、今回のテクニカル・アドバイスの内容を精査するとともに、今後、欧州委員会による細則策定の動きを注視する必要がある。

【レポート内容】オムニバス第一弾による簡素化見直し(振り返り)；審議状況アップデートと今後の見通し；合意された主な修正内容(EU機関の発表ベース)；ESRS(欧洲サステナビリティ報告基準)への反映

賛助会員・関係者の皆様のみ全文閲覧・ダウンロードが可能です。

賛助会員へのご入会[こちら](#)